

## 武蔵野市産業構造実態調査概要報告 ～ 2. 事業所調査

### 1 調査の概要

■調査地域	武蔵野市
■調査対象	市内の全事業所
■標本母体	平成21年度経済センサス基礎調査（平成21年7月1日現在値）
■抽出方法	多段階層化抽出
■標本数	配布数3,809サンプル
■調査方法	訪問留置・訪問回収法または郵送回収法
■調査期間	平成24年10月18日（木）～平成25年1月30日（水）
■回収数（回収率）	2,128サンプル（55.9%） 商業・サービス業 1,795サンプル 商業・サービス業以外 333サンプル

### 2 調査結果の概要

#### （1）事業所属性

- 「卸売・小売業」が20.0%で最も高く、「サービス業」「飲食業」「不動産業」「医療・福祉」と続き、上位項目は商業・サービス業が占める。
- 所在地は「吉祥寺本町」が24.0%で最も高く、「吉祥寺南町」14.9%、「中町」10.7%であり、創業年は「1960年代以前」21.3%、「2000年以降」19.0%、武蔵野市立地年は「2000年以降」22.5%、市内創業は65.9%である。
- 商業・サービス業の40.7%が「個人事業主」、商業・サービス業以外の60.4%が「単独事業所」であり、従業者数は平均11.0人、家族従業者がいるのは42.9%である。
- 経営者は「60歳代」27.4%、「70歳代以上」21.8%、武蔵野市内在住は47.7%、“後継者が既にいる”のは27.0%に留まる。

#### ①業種

「卸売・小売業」が20.0%で最も高く、次いで「サービス業」19.4%、「飲食業」14.4%、「不動産業」12.4%、「医療・福祉」9.2%であり、上位5項目は全て《商業・サービス業》系の業種となっている。《商業・サービス業以外》で最も割合が高いのは「建設業」で3.5%である。

#### ②所在地・創業年・立地年・創業地

所在地をみると「吉祥寺本町」が24.0%で最も高く、次いで「吉祥寺南町」14.9%、「中町」10.7%、「境南町」10.1%である。

創業年は「1960年代以前」が21.3%で最も高く、次いで「2000年以降」19.0%、「1990年代」16.1%である。武蔵野市立地年は「2000年以降」が22.5%で最も高く、次いで「1990年代」19.8%、「1960年代以前」16.9%、「1980年代」14.0%である。創業地をみると「市内で創業」は65.9%、「市外で創業」は24.5%である。

#### ③法人・事業所形態

《商業・サービス業》の法人形態をみると「個人」が40.7%で最も高い。“株式会社”は31.2%、“有限会社”は18.7%である。《商業・サービス業以外》の事業所形態をみると

「単独事業所」が 60.4%で最も高く、次いで「本社」14.4%、「支社・支店」8.4%である。

#### ④従業員数等

従業員数は平均 11.0 人、“50 人未満”の小規模事業所が 87.2%を占め、“5 人未満”で 52.6%と過半数を占める。家族従業員が「いる」のは 42.9%、「いない」のは 47.6%であり、家族従業員数の平均は 2.0 人である。

#### ⑤経営者属性・後継者有無

経営者の性別は「男性」が 75.4%、年代は「60 歳代」が 27.4%で最も高く、次いで「70 歳代以上」21.8%、「50 歳代」21.3%である。在住地は「武蔵野市内」47.7%、「隣接市」9.5%、「隣接区」6.3%であり、63.5%が武蔵野市とその近隣に自宅がある。

後継者の状況をみると、「後継者について考える段階でない」が 30.1%で最も高く、“後継者が既にいる”のは 27.0%、「後継者がいないので廃業予定」8.4%、「後継者の有無に係わらず廃業」9.0%であり、“廃業”を予定しているのは 17.4%である。

### (2) 顧客属性等《商業・サービス業》

■固定客の比率は平均 69.3%、フリー客は平均 30.6%である。

■主要顧客の所在地は「市内」が 52.9%、年代は「50 歳代」「40 歳代」「30 歳代」の順に高く、客層は「成人男性」、「お年寄り」「仕事を持った女性」の順に高い。

■顧客に選ばれる理由は「なじみの店」が 27.1%で最も高く、「品質・鮮度がよい」19.9%、「品揃え等が豊富」18.1%、「家から近い」16.7%、「価格が安い」15.2%と続く。

#### ①顧客比率

固定客の割合は平均 69.3%、フリー客の割合は平均 30.6%である。“吉祥寺地域”ではフリー客の割合が 50%以上を占める店舗・事業所が 26.7%で高い。

#### ②顧客属性

主要顧客の所在地は、「武蔵野市内」が 52.9%で最も高く、「杉並区・練馬区・三鷹市・西東京市・小金井市」の隣接市区が 13.2%、「武蔵野市・隣接市区以外」が 9.4%となっている。年代は「50 歳代」が 44.2%で最も高く、次いで「40 歳代」42.5%、「30 歳代」38.4%である。客層は「成人男性」が 44.0%で最も高く、次いで「お年寄り」37.7%、「仕事を持った女性」37.0%、「専業主婦」34.4%である。

#### ③顧客に選ばれる理由

顧客に選ばれる理由をみると、「なじみの店」が 27.1%で最も高く、次いで「品質・鮮度がよい」19.9%、「品揃え等が豊富」18.1%、「家から近い」16.7%、「価格が安い」15.2%となっている。「家から近い」ことは“医療・福祉”“金融・保険業”“教育・学習支援業”で、「価格が安い」ことは“卸売・小売業”“飲食業”で理由としてあげられている。

### (3) 経営状況

■3 年前と比較した昨年度売上高の増減をみると、「横ばい」が約 1/4 を占めるが、全体的に減少傾向となっている。3 年前と比較した昨年度営業利益の増減をみると、「横ばい」が約 1/5 を占めるが、全体的に減少傾向となっている。

■《商業・サービス業》の業績評価は「不振」43.1%であり、「景気の変動による影響」「周辺への同業店舗等の増加」「取扱商品等の需要落ち込み」を理由にあげている。

■今後 3 年間の業況の推移予測をみると、「変わらない」が 3 割程度を占めるが、悲観的観測が楽観的観測を上回っている。

### ①売上高・営業利益の増減

3年前と比較した昨年度売上高の増減をみると、「10%~29%減少」が24.3%で最も高く、次いで「横ばい」23.0%、「4%~9%減少」11.7%となっている。“増加”が11.0%、“減少”が47.4%であり、36.4ポイント“減少”が高い。

3年前と比較した昨年度営業利益の増減をみると、「10%~29%減少」が21.6%で最も高く、次いで「横ばい」19.8%、「30%以上減少」13.4%となっている。“増加”が10.6%、“減少”が46.4%であり、35.8ポイント“減少”が高い。

### ②業績評価《商業・サービス業》

《商業・サービス業》の最近の店舗・事業所の業績評価をみると「順調」9.2%、「横ばい」36.0%、「不振」43.1%で、「不振」が最も高い。特に『飲食業』では54.9%の事業所が「不振」と回答している。業績が不振な理由としては、「景気の変動による影響」が62.1%で最も高く、次いで「周辺への同業店舗等の増加」21.0%、「取扱商品等の需要落ち込み」14.2%となっている。

### ③今後の景況感

今後3年間の業況の推移予想をみると、「変わらない」が28.9%で最も高く、次いで「やや悪くなる」26.2%、「悪くなる」18.7%である。「良くなる」と「やや良くなる」を足した楽観的観測は16.5%、「悪くなる」と「やや悪くなる」の悲観的観測は44.9%で、悲観的観測の方が28.4ポイント高い。

## (4) 経営課題

■現在、店舗・事業所で困っていることについてみると、《商業・サービス業》では「売上の伸び悩み」「同業者との競争激化」、《商業・サービス業以外》では、「受注高・取引量・売上高の減少」「顧客や取引先に生じた変化の影響」「競合他社等との競争環境の激化」となっている。

■個別事業課題への今後の取組意向をみると、《商業・サービス業》では『新商品・サービスの開発』、『ITを活用した宣伝PR』、『地球環境への配慮』、《商業・サービス業以外》では『地球環境への配慮』、『ITを活用した業務改善・改革』、『ITを活用した販路開拓』、『先進技術の導入・活用』などとなっている。

### ①事業課題

《商業・サービス業》の店舗・事業所で困っていることが“ある”のは75.7%、困っている内容としては、「売上の伸び悩み」が46.9%で最も高く、次いで「同業者との競争激化」16.6%、「人材不足」14.4%、「経営者の高齢化」13.5%、「粗利益の低下」13.1%となっている。《商業・サービス業以外》の事業所で経営上抱えている課題が“ある”のは73.3%、課題の内容としては、「受注高・取引量・売上高の減少」が35.4%で最も高く、次いで「顧客や取引先に生じた変化の影響」21.3%、「競合他社等との競争環境の激化」20.1%、「従業員の高齢化」17.4%、「運転資金の確保」16.2%となっている。

### ②個別事業課題への今後の取組意向

個別事業課題への今後の取組意向をみると、《商業・サービス業》では『新商品・サービスの開発』21.0%、『ITを活用した宣伝PR』16.3%、『地球環境への配慮』15.7%、《商業・サービス業以外》では『地球環境への配慮』17.1%、『ITを活用した業務改善・改

革』15.6%、『ITを活用した販路開拓』『先進技術の導入・活用』15.0%となっている。

### (5) 立地環境評価等

- 地域の商店街「会員である」のは42.8%、「会員でない」のは47.5%である。
- 商店会活動の活発性を「不活発」、活動への参加を「不活発」と評価する会員が多い。店舗・事業所が立地している、又は周辺商業地域の活性度は、「どちらともいえない」が1/4で“活性化していない”評価が高い。
- 《商業・サービス業》の店舗・事業所が立地している、又は周辺の商業地域全体における当面の問題点は「特にない」が2割を超えて最も多く、内容は「来客用の駐輪場・駐車場の不足」「核になる店舗・事業所がない」などとなっている。
- 武蔵野市立地のメリットは「交通の便がよく地理的にも便利」「自宅等が近いため」「街並みが整備されていて魅力的」などで「特にない」は1割程度、デメリットは「建物・施設の賃貸借の費用が高い」「競争相手が多く、競争が激しい」「顧客の固定化が難しい」などであり、「特にない」が1/4を占める。
- 期待する公的支援としては、「まちの賑いづくり」が25.3%で最も高く、次いで「宣伝PR支援」14.4%、「融資等資金対策」11.4%となっている。

#### ①商店加入状況《商業・サービス業》

《商業・サービス業》の地域商店会等への加入状況をみると、「会員である」が42.8%、「会員でない」が47.5%である。『飲食業』の61.1%は会員となっている。

#### ②商店活動・参加状況等《商業・サービス業》

商店会活動の活発性は「活発」14.6%、「普通」54.3%、「不活発」23.8%、商店会活動への参加程度は「活発」11.3%、「普通」44.5%、「不活発」37.0%である。

店舗・事業所が立地している、又は周辺の商業地域の活性化状況は「どちらともいえない」が22.2%、「活性化している」が26.3%、「活性化していない」が35.1%である。

#### ③立地環境の問題点

《商業・サービス業》の店舗・事業所が立地している、又は周辺の商業地域全体における当面の問題点が“ある”のは57.2%、「特にない」のは23.4%である。内容としては「来客用の駐輪場・駐車場の不足」17.6%、「核になる店舗・事業所がない」12.9%、「住宅が多く、商業地域としての連続性に欠ける」12.0%となっている。

#### ④武蔵野市立地のメリット・デメリット

武蔵野市の環境や立地するメリットは「交通の便がよく地理的にも便利」が57.5%で最も高く、「自宅等が近いため」18.6%、「街並みが整備されていて魅力的」13.5%と続き、「特にない」は11.5%である。デメリットは「建物・施設の賃貸借の費用が高い」が36.8%で最も高く、「競争相手が多く、競争が激しい」15.1%、「顧客の固定化が難しい」6.4%と続き、「特にない」は26.1%である。

#### ⑤期待する公的支援

今後、市や都等に対して“何らかの公的支援を望む”のは51.6%、「特にない」のは25.4%であり、公的支援の内容としては、「まちの賑いづくり」が25.3%で最も高く、次いで「宣伝PR支援」14.4%、「融資等資金対策」11.4%となっている。